

この道のりに、この人達あり

今回の訴訟であまり表に出ては来なかった事を書きましょう。
それは東京都歯科技工士会に所属する練馬支部である。

所属人数 85 名の支部ながら、その行動力には目を見張るものがあります。
平成 16 年、都技で海外委託技工に対する対策本部を立ち上げた時にその原資となる 30 万円もの資金を提供したのが練馬支部である。

その後対策本部は不本意な形で解散したが、その後も練馬支部の会員は行動を続けるのである。

昨年、今回の海外委託技工訴訟が形を見せ始めた頃、彼らは自分たちの支部の資金 70 万円を提供したのである。さらに練馬支部の強い働きかけもあり、都技の西部ブロックでも 16 万円を提供してくれたという経緯は見過ごせません。

そして練馬支部以外でも個人で訴訟の印紙代 44 万円を提供してくれた方もおり、それが現在の活動の礎となっているのは間違いのないところである。これを聞くと、お金がある支部はいいね、の一言で済ませる方もいるだろうがそれは間違いと断言させていただきます。これらのお金はいずれも練馬支部や西部ブロック所属の会員が夜遅くまで働きそして支部の仲間達との共通の資産として大事にしていたものである。

ともすれば、技工士会批判ばかりが目立つような昨今ではあるが、実際このように支部単位でも歯科技工士が何の為に、誰の為にを理解し、そして己のプライドの為に血を流しているのである。

既に練馬支部以外にも九州は長崎でも県技や技工所協会レベルでの活動が熱く報告されているのはご存知の通りであります。たとえ歯科技工士会の会員であろうとそこに歯科技工士として生きてきた意味、そしてその歯科技工士で家族を養ってこれたという自負、さらには後世に何かを残そうとする想い、歯科技工士として生きてきた事が間違いではなくその先に常に国民を想う気持ちがそこにあればこそその行動であると理解するべきです。

きっとこれを読んで頂いてもほとんどの技工士さん達は鼻を鳴して終わりだろう、しかしその中で一人だけでもいいのでわかって頂きたい。一銭の銭にもならない事に対して血を流せる事に意義を見出そうとする生き方もあることを。

たとえそこに何も残らないとしても、それを家族は理解してくれると信じて血を流せる者達がいる事を。練馬支部及び多数の方々に教えて頂きました。

“歯科技工士である前に人間である事の大事さを”

もし、これを読んで技工士会会員ではあるが何かをしたいと思った方がいたら迷わず声を挙げればいいのです。練馬支部や長崎には間違いなく貴方の仲間がいます。そして全国にも貴方の仲間はいるのですよ。社会とは結果を求めると同時にやったか、やらなかったかを求めるものです。

たった一人でも仲間である貴方には期待を込めて、練馬支部の方々には敬意を込めて書かせて頂きました。

『歯科技工の海外委託問題訴訟を支援する会』

<http://www.geocities.jp/gikotake1965/kaitop2.html>

<http://soshougikoushi2007.seesaa.net/>

代表 脇本 征男

TEL&fax 03(3868)0170

アドレス wakimoto@bc.ij4u.or.jp